

ている。

今回改めて鉱害復旧事業や防災の観点からも補助事業等を確認したが、県からは対象事業はないとの回答があった。

トンネル内部について、私と職員で、直接確認をした。
・トンネル内部の土砂の崩落は認められず、岩盤の一部剥離はあったが、岩盤自体が崩れている状況は確認できなかった。

・トンネル内の鋼材のアーチ部分は、腐食はしているものの変形や外れ等は認められなかった。

・町道杉谷く旭町線の地下区間は、崩落、ひび割れ、抜け落ちなど異常は確認できなかった。

今後の対応としては、町道路管理の観点からトンネル内の確認を必要に応じて実施していく。トンネルは閉塞せずに注視していくことにより、居住者の不安払しょくに努めていく。

中学部活動の在り方について

議員 中学部活動について

は、全国的に地域移行に向けた検討がなされているが、本町はどのような方針の下に、どのような体制で臨もうとしているのか。

教育長 部活動検討委員会を

立ち上げ、外部指導者や校長を交えて検討を重ねている。部活動の地域移行については、令和5年度から7年度の3か年でまずは、休日の地域連携や地域クラブ活動へ移行することとなっている。8年度は休日実施の部活動は地域に完全移行することを目指しているが、本町としては、他市町の事例を参考にして本町に合った取り組みをしていきたい。現在の部活動は、スポーツ部として野球部、陸上部、バレー部、卓球部、剣道部があり、文化部として吹奏楽部と美術部がある。このうち野球部、陸上部、卓球部、剣道部については、外部指導者に支援してもらっている。

地域移行に向け課題とな

るのは、責任の所在と外部指導者の確保である。

部活動はあくまでも学校教育の一環なので原則、教員が指導することになる。外部指導者は教員の補助的指導となる。地域移行された場合、学校は指導者と情報交換を行い、連携をしていくことが大事になる。

最近、スポーツに関わる生徒の実態も変わってきている。現在の部活動とは別に、仲間とわいわい言いながらスポーツを純粋に楽しむ子と大きく2つに分かれてきている。

この二つの環境整備を進めるために、今後部活動検討委員会や遊ゆうスポーツクラブ等の諸団体と連携協議しながら進めていきたい。また、費用負担の面についても、他市町の状況等を参考にしながら検討していきたい。

安全・安心のまちづくりについて

三根 和之

議員 現在、国や県にポンプ

の設置を要望しているが、認可に時間がかかっているのではないかと思われる。迅速に対応していくためにも、現場樋管および八ツ江樋管に、新たに町単独でポンプを設置する意向はないか。

白石町では、緊急自然災害防止対策事業債を活用してポンプを設置されている。大町町もこの事業を活用して、現場樋管および八ツ江樋管にポンプの設置をしていく考えはあるか。

町長 大町町でも、ため池の事前放流や六角川上流域からの内水流入が大きかった中島・下瀧地区の排水対策として、現在の下瀧排水機場7・5トンに加え、止水壁設置を含め毎秒3トン排水できるポンプの増設や、町で総排水量0・5トンの移動式ポンプを導入するなど、流域全体で一体的な内水対策を進めています。

これらの整備により、下流に位置する大町町内への内水流入量は相当の軽減が

見込まれています。

このように、今までの常識を超えた気象変動に大町町が対抗していくためには、国、県、流域市町が課題を共有し、連携して流域治水の取り組みを行っていく必要があります。

大町町としては、それぞれの懸命な取り組みを支持しながら、昨年策定した「大町町の内水対策に関する取組」に基づき、内水対策を進めていきたいと考えています。

それから、緊急自然災害防止対策事業債いわゆる「緊防債」を活用してのポンプの設置については、大町町でも当然「緊防債」の活用は検討し、その結果、ご指摘の固定のポンプ場よりも出水期に合うよう迅速に対応するため、かつ機動的に活用できる「移動式ポンプ」総排水量0・5トンを早期に導入し、既に現場樋管を主戦に運用しているところです。

国や県でも移動式ポンプ